

未来への伝承

小田家14代 小田政治肖像画 (県指定文化財)

—小田氏最大の勢力図を築く—

南に桜川、北に筑波山を望む小田城(現つくば市)は、鎌倉時代から室町時代までの約370年もの間、小田氏の居城としてあり続けました。小田氏は初代八田知家を祖として15代氏治の時まで、桜川の中・下流域を中心に土浦地方を支配しました。今回紹介するのは、市内高岡の法雲寺に伝来した小田家14代政治の肖像画です。

政治は12代成治の子で、明応元(1492)年に生まれました。同5(1496)年、政治の長兄治孝(小田家13代)と次兄顕家が内紛を起こし、顕家が治孝を殺害してしまします。この時、政治はまだ幼少の身であったことから、信太・菅谷・田土部

氏などの小田本宗被官などが政治を守護し、加えて真壁城主(現桜川市)の真壁氏に助勢を求めました。結果、顕家は討たれ、政治が永正7(1510)年に14代小田城主として家督を継いでいます。争いに決着をつけた政治は、近隣諸国から自領を守ることに先決であったと思われます。そのため、古河公方家の後盾を得るため、公方家の内紛に

関与し、一方で常陸北部の勇将佐竹義篤には妹を正室として嫁がせて友好化を図っています。また、長らく実現していない旧領回復のため、信太庄東部の土岐原氏と河内郡・東条庄をめぐって抗争、享祿4(1531)年には鹿の子原(現石岡市)で江戸通泰と戦って敗走させています。さらに、天文6(1532)年には結城政勝と戦って敗れますが、同7(1533)年には宇都宮俊綱(後に尚綱、母は小田成治の娘)とともに芳賀高経を攻めて高経を捕虜とし、同8(1534)年には宇都宮俊綱、佐竹義篤とともに那須高資を烏山城に攻めるな

ど、多方面にわたって隣接武将と戦を行っていました。これにより小田氏の勢力範囲は、信太庄西部・南部、小栗御厨(現筑西市)、中郡庄にまで及び、国人領主から戦国大名へと成長しました。しかし、同14(1545)年の河越夜戦では、古河公方の足利晴氏方に味方して敗れ、北条氏康の脅威の前にして同17(1548)年57歳で没しています。

政治の肖像画は、畳縁が緑青色で雲形模様のある上げ畳に、縁が焦茶色で唐草模様のある褥を敷いて坐禅を組むようにして座っています。服装は花模様のある襦袢に黒の法衣のような着物をまとっています。付帯する品物は、柄の長い団扇と黒漆塗りの帙に書物が1冊置かれ、腰には鐙を付けない黒漆塗合口拵の長脇指を差しています。顔立ちには、月代を大きく剃り上げて茶筌鬚風にし、口髭と顎鬚を程よく生やし、眉毛が少し吊り上げぎみで眼光鋭く、いかにも戦国武将といった堂々たる風貌がうかがえます。

肖像画の上部には、鎌倉円覚寺150世叔悦禅憺が寿像(生前に作った肖像)賛をしたためがあり、これにより大永2(1522)年政治30歳の肖像画であることが分かります。

この肖像画は、博物館の展示室3で公開しています。また、第32回特別展「戦国武将小田氏と法雲寺」(3月19日から5月8日まで)でも紹介します。

岡市立博物館(☎824・2928)



小田政治肖像画

戸通泰と戦って敗走させています。さらに、天文6(1532)年には結城政勝と戦って敗れますが、同7(1533)年には宇都宮俊綱(後に尚綱、母は小田成治の娘)とともに芳賀高経を攻めて高経を捕虜とし、同8(1534)年には宇都宮俊綱、佐竹義篤とともに那須高資を烏山城に攻めるな